

I. 長崎県農林業基準技術の策定に伴う基本的な考え方

1. 経営類型策定の基本的な考え方

近い将来（おおむね 5 年後、2023 年）、実現可能な営農類型を想定し、この営農類型の農業所得目標を達成するための生産技術体系を示す。また、経営体の発展段階に応じ「所得 600 万円モデル」と「所得 1000 万円モデル」を示す。

【所得 600 万円モデル】

- (1) 1 経営体当たりの農業所得目標は、おおむね 600 万円以上
- (2) 1 経営体当たりの家族労働力は 2~3 人
- (3) 主たる従事者 1 人当たり年間労働時間は、おおむね 2,000 時間

【所得 1000 万円モデル】

- (1) 1 経営体当たりの農業所得目標は、おおむね 1000 万円以上
- (2) 1 経営体当たりの家族労働力は 2~3 人以上、雇用労働力は常時 1 人以上
- (3) 主たる従事者 1 人当たり年間労働時間は、おおむね 2,000 時間

2. 農林業基準技術の特色と内容

(1) 基準技術の特色

- ア ここ 5 年間で新たに開発・確立された品種、生産・飼養管理技術（表 1）を取り入れている。
- イ 新たに開発された機械・施設に関しては、今後、普及・定着が見込まれるものを導入している。
- ウ 作物別・作型別の単位当たり収量水準は、試験研究成果及び認定農業者等の担い手農家の収量水準等、達成可能な目標収量としている。

(2) 基準技術の内容

長崎県の主要品目を主作目とする「経営類型（所得 600 万と 1000 万の 2 タイプ）」と「単一品目（作型）」に関する「経営規模、家族労働力、資本装備、生産技術・作業体系と月別労働時間」及び単位当たり（10a 当たり、1 頭当たり等）の「経営収支、投下労働時間」を示す。

(3) 価格水準等

価格は、原則として、対象作物の主産地の主要出荷市場の 5 年間の価格のうち、最高と最低を除いた 3 年間の平均価格を採用する。

なお、品目によっては出典を明記することを条件に、優良事例（組織・集団等）の数年間の平均値を採用することも認めている（詳細は「5. 作型別・作物別の価格水準」に記載）。

3. 農林業基準技術の活用

(1) 改善技術案の作成

各振興局は技術実証ほの成果に基づき技術課題を把握し、基準技術に準じ改善技術案を作成する。(長崎県農林業技術の確定並びに普及要項 4 (2) イ (7) p777)

(2) 「営農類型試算プログラム 4」

認定農業者を中心とした農業経営の設計や地域農業振興計画を策定する場合に必要な「営農類型策定」作業を行う際に、本基準技術のデータを収録した「営農類型試算プログラム 4」を用いる。なお、本プログラムは作目・品目の組み合わせ、規模、労働力、生産量、市場単価などの営農条件を自由に変化させ、目標とする営農類型（計画案）を作成できる Excel ベースの試算ツールである。

表1 新たに取り入れた品種、生産・飼養管理技術

部門	品目名	内容	品種・技術導入による効果	省力・低コスト	新品種新作物	環境保全	収量品質向上	技術導入モデル		
								600万営農類型	1000万営農類型	単一品目
普通作	水稲	新品種の導入	「なつほのか」導入による収益向上と水田利用率向上		○			○	○	
	麦類	新品種・新技術導入	はるか二条、長崎御島、長崎W2号等導入による単収向上、部分浅耕播種による省力・低コスト	○	○			○	○	
	大豆	新技術導入	部分浅耕播種による省力・低コスト	○				○	○	
野菜	ばれいしょ	新品種・新技術導入	産業用無人ヘリによる省力防除「アイマサリ」の導入による収益向上	○				○		
	いちご	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○	○	
	きゅうり	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○		
	トマト	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○	○	
	ミニトマト	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○	○	
	なす（促成）	新品種・新技術導入	単為結果性品種導入およびIPM技術による省力化	○	○					○
	ミニトマト促成	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○		
花き	輪ぎく	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○	○	
	カーネーション	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○	○	
	ばら	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○		
	トルコギキョウ	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○	○	
	小ぎく	新技術導入	LED電照導入による光熱費の低減	○						○
果樹	ハウスみかん	新技術導入	環境制御技術導入による収益向上				○	○		
	中晩柑	新作物の導入	施設中晩柑の導入による収益向上		○		○	○		
	びわ	新作物の導入	簡易ハウス栽培による霜害回避と有利販売		○			○		
工芸作物	茶	新技術導入	茶少量農薬散布機導入による農薬費削減と防除作業省力化	○				○	○	
	葉たばこ	新技術導入	エコ乾燥機による燃料費削減	○				○		

部門	品目名	内容	品種・技術導入による効果	省力・低コスト	新品種新造型	環境保全	収量品質向上	技術導入モデル		
								600万営農類型	1000万営農類型	単一品目
家畜	酪農(50頭)	新技術導入	雌雄判別精液の導入による効率的後継牛生産、キャリロボ利用による労力削減	○				○		
	"(120頭)	新技術導入	搾乳ロボット、コントラクター利用による労力削減、牛群検定利用による経営改善	○			○		○	
	肉用牛繁殖(30頭)	新技術導入	一部放牧導入による飼料費削減、労力削減	○				○		
	"(80頭)	新技術導入	超早期母子分離技術導入による子牛の発育向上、分娩間隔短、コントラクター利用による労力削減	○			○		○	
	肉用牛肥育(200頭, 300頭)	新技術導入	長崎型肥育方式技術導入による高品質牛肉の生産				○	○	○	
	肉用牛一貫								○	
	養豚(200頭)	新技術導入	オールイン・オールアウト、ベンチマーキング実施による生産性向上	○			○		○	
	採卵鶏	新技術導入	LED照明導入による光熱費の低減	○			○		○	
	ブロイラー(60,000羽)	新技術導入	低床ウインドレス鶏舎、クーリングパッド、ライブカメラ、自動給餌機、LED照明導入による飼料費・光熱費の低減	○			○	○		
	ブロイラー(170,000羽)	新技術導入	低床ウインドレス鶏舎、クーリングパッド、ライブカメラ、自動給餌機、LED照明導入による飼料費・光熱費の低減	○			○		○	

4. 部門別の経営類型と単一品目（作型）

(1) 普通作部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	個別経営Ⅰ	1,000	200	800	2.0	水稲4ha、麦類10ha、大豆6ha
2	集落営農組織Ⅰ	2,000	0	2,000	3.0	水稲20ha、たまねぎ(加工)2ha

「経営類型(所得1000万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地面積	うち 自作地	うち 借入地	労働力	備考
1	集落営農組織Ⅱ	3,000	0	3,000	3.0	水稲15ha、麦類30ha、大豆15ha
2	集落営農組織Ⅲ	5,000	0	5,000	4.0	水稲25ha、麦類50ha、大豆25ha
3	集落営農組織Ⅳ	3,000	0	3,000	5.0	水稲10ha、稲WCS7ha、麦20ha、大豆10ha、たまねぎ10ha
4	集落営農組織Ⅴ	2,000	0	2,000	3.0	水稲10ha、加工米2ha、WCS7.5ha、アスパラガス0.5ha

「単一品目」

(単位:a、人)

品目		当該品目の栽培面積	家族 労働力	備考
1	早期水稲	400	2.0	経営耕地面積800a
2	普通期水稲	400	2.0	〃 800a
3	小麦(チクゴイズミ)	800	2.0	〃 800a
4	小麦(長崎W2号)	800	2.0	〃 800a
5	大豆	400	2.0	〃 800a
6	飼料用米(専用品種)	400	2.0	〃 800a
7	稲WCS(主食用品種)	400	2.0	〃 800a

(2) 野菜部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:a、人)

区分	経営類型	経営耕地面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
露地栽培	1 露地野菜専業Ⅰ	400	200	200	3.0	ばれいしょ、にんじん
	2 露地野菜専業Ⅱ	350	200	100	3.0	にんじん、だいこん、はくさい
	3 露地野菜専業Ⅲ	530	250	280	3.0	ばれいしょ
	4 露地野菜専業Ⅳ	680	260	420	3.5	ばれいしょ、レタス
	5 露地野菜専業Ⅴ	500	500	-	3.0	ブロッコリー
施設栽培	6 施設野菜専業Ⅰ	30	30	-	3.5	いちご
	7 施設野菜専業Ⅱ	40	50	-	3.0	トマト
	8 施設野菜専業Ⅲ	30	30	-	3.0	きゅうり
	9 施設野菜専業Ⅳ	50	50	-	2.0	アスパラガス
	10 施設野菜専業Ⅴ	40	40	-	3.0	ミニトマト

「経営類型(所得1000万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地 面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
露地	1 露地野菜専業Ⅵ	800	600	200	3.0	ブロッコリー
施設	2 施設野菜専業Ⅵ	50	50	-	3.5	いちご
	3 施設野菜専業Ⅶ	80	80	-	4.0	トマト
	4 施設野菜専業Ⅷ	60	60	-	4.0	ミニトマト

「単一品目」

(単位:a、人)

品目		当該品目の栽培面積	家族 労働力	備考
1	いちご株冷(地床)	10	2.0	経営耕地面積100a
2	いちご普通(地床)	10	2.0	" 100a
4	トマト抑制	30	2.0	" 150a
5	なす促成	40	3.0	" 40a
3	きゅうり半促成	20	2.0	" 200a
6	きゅうり夏秋	20	2.0	" 200a
7	すいか半促成	50	2.0	" 150a
8	すいか早熟	40	2.0	" 200a
9	小玉すいか早熟	40	2.0	" 200a
10	アムスメロン半促成	30	2.0	" 150a
11	ネットメロン夏作	60	2.0	" 150a
12	ネットメロン秋作	40	2.0	" 150a
13	かぼちゃ早熟	80	2.0	" 200a
14	かぼちゃ抑制	50	2.0	" 200a
15	にがうり半促成	30	2.0	" 150a
16	スイートコーン	30	2.0	" 200a
17	冬キャベツ	60	2.0	" 200a
18	秋冬はくさい	50	2.0	" 200a
19	にら半促成	20	2.0	" 150a
20	いんげん半促成	10	2.0	" 200a
21	いんげん抑制	10	2.0	" 200a
22	えんどう(スナップ)露地	10	2.0	" 200a
23	えんどう(スナップ)半促成	10	2.0	" 200a
24	そらまめ露地	30	2.0	" 200a
25	早出したまねぎ	100	2.0	" 200a
26	普通たまねぎ	60	2.0	" 200a
27	しょうが半促成	50	2.0	" 150a
28	オクラ	10	2.0	" 200a
29	たまねぎ(加工・業務用)	100	2.0	" 200a
30	たかな(加工・業務用)	100	2.0	" 200a

(3)花き部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地 面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	輪ぎく専業	60	60	0	3.0	
2	カーネーション+ガーベラ	50	50	0	3.0	
3	ばら専業	50	50	0	3.0	
4	トルコギキョウ	50	50	0	3.0	

「経営類型(所得1000万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地 面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	輪ぎく専業	75	75	0	3.0	
2	カーネーション+ガーベラ	80	80	0	3.0	
3	トルコギキョウ	70	70	0	2.0	

「単一品目」

(単位:a、人)

品目		当該品目の栽培面積	家族 労働力	備考
1	きんぎょそう	10	2.0	経営耕地面積100a
2	ストック	10	2.0	100a
3	ひまわり	10	2.0	100a
4	小ぎく(7~8月出荷作型)	10	2.0	100a
5	ほおずき	10	2.0	100a
6	ラナンキュラス	10	2.0	100a
7	アスター	10	2.0	100a

(4)果樹部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地 面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	かんきつ専業Ⅰ	300	180	120	2.5	(露地、SS防除体系) 極早生20、早生120、させぼ60、 普通70、中晩柑30
2	かんきつ専業Ⅱ	200	160	40	2.0	露地、動噴防除体系
3	かんきつ専業Ⅲ	100	100	0	2.5	ハウス、動噴防除体系
4	びわ複合	200	165	35	2.5	びわ主体、露地動噴防除体系

「経営類型(所得1000万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地 面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	かんきつ専業大規模経営	500	300	200	3.0	(露地、SS防除体系) 極早生50、早生200、させぼ100、 普通・高糖度100、不知火50

「単一品目」

(単位:a、人)

品目		当該品目の栽培面積	労働力	備考
1	なし(露地)	150	2.5	経営耕地面積150a
2	ハウスもも(加温、無加温)	40	2.0	" 40a
3	ぶどう(加温、無加温、露地)	60	2.0	" 60a
4	いちじく(無加温、露地)	40	2.0	" 40a
5	キウイフルーツ(露地)	20	2.0	" 20a

(5) 工芸作物部門

茶部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営耕地 面積	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	茶専業(乗用型)	650	500	100	2.5	

「経営類型(所得1000万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営規模	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	茶協業(乗用型)	2,000	2,000	—	4.0	

「単一品目」

(単位:a、人)

品目		当該品目の栽培面積	労働力	備考
1	茶(乗用型-共同利用)	300	1.5	経営耕地面積300a

葉たばこ部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:a、人)

経営類型		経営規模	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1	葉たばこ(第1黄色種)	250	250	0	3.0	

(6)家畜部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:頭、羽、人)

経営類型	経営規模	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1 酪農専業(つなぎ牛舎)	50	200	100	2.0	
2 肉用牛繁殖	30	80	50	1.5	
3 肉用牛肥育専業	200	-	-	2.0	
4 ブロイラー専業	60,000	-	-	2.0	

「経営類型(所得1000万)」

(単位:頭、羽、人)

経営類型	経営規模	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1 酪農専業(フリーストール)	120	250	400	2.0	
2 肉用牛繁殖専業	80	200	150	2.0	
3 肉用牛肥育専業	300	-	-	3.0	
4 肉用牛一貫専業	繁殖50 肥育70	100	80	3.0	
5 養豚一貫専業	200	-	-	5.0	
6 採卵鶏専業	80,000	-	-	2.0	
7 ブロイラー専業	170,000	-	-	3.0	

(7)林業部門

「経営類型(所得600万)」

(単位:ha、人)

経営類型	経営規模	うち 自作地	うち 借入地	家族 労働力	備考
1 ひのき+しいたけ	人工林 20ha	山林 20ha	-	3.0	

5. 作型別・作物別の価格水準

価格は、対象作物の主産地の主要出荷市場の5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を原則的に採用し、以下の品目については下記により価格算定している。

(1) 野菜部門

いちご、アスパラガスは全農長崎取り扱いの5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。

ばれいしょ、にんじん、はくさい、だいこんは主要市場の10ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、8年間の平均価格を採用している。

(2) 花き部門

ア 輪ぎく、トルコギキョウ、アスター、きんぎょそう、ストック、ひまわり、小ぎくは全農長崎取り扱いの5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。

イ カーネーション、ガーベラ、ばら、ほおずきについては、県内主要生産者（生産組織）の販売単価の5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。

(3) 果樹部門

ア 極早生温州、早生温州、普通温州は、東京都中央卸売市場（H25～29）の販売単価の直近4年間の平均価格を採用している。また、させぼ温州および不知火（露地）は、全農長崎取り扱い販売単価の直近4年間の平均価格を採用している。
*露地かんきつは、表年、裏年で数量および単価が変動するため。

イ ハウスみかん（6月出荷型、グリーン）は、東京都中央卸売市場（H25～29）の販売単価の5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。また、ハウスみかん（無加温越冬完熟）、不知火（加温、無加温）、せとか（加温）は、全農長崎取り扱い販売単価の5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。

ウ ハウスびわおよび露地びわと「なつたより」は、全農長崎（H26～30）取り扱い販売単価の5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。

エ なし、ハウスもも、ぶどう、キウイフルーツは、東京都中央卸売市場（H25～29）の販売単価の5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。また、いちじくは、全農長崎取り扱い販売単価の5ヶ年間の価格のうち、最高と最低を除いて、3年間の平均価格を採用している。

(4) 工芸作物部門

茶単価は、荒茶価格は西九州茶流通センターの5カ年間の価格のうち、最高と最低を除いた3年間の平均。小売価格は総務省「小売物価統計調査年報」の長崎市における5年間の価格のうち、最高と最低を除いた3年間の平均価格を採用している。